



大樹のこころ

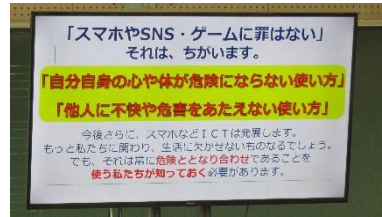
情報モラル教育

学校現場にタブレット端末が導入され、それを活用した授業が日常的に行われるようになってきました。また家庭生活においてもスマートフォンやタブレット端末を持つことが当たり前になり、今やこのような機器はなくてはならない存在となっています。大樹寺小では未来に生きる子供たちにとって、ICTの活用は必要不可欠なことと考え、タブレットを使っでの授業の推進を図っています。

一方で、スマートフォンやタブレットの活用には危険も伴います。スマホなどを用いて遊び感覚で行ったことが、子供の人生を狂わせるようなことがあってはなりません。本校では「情報モラル教育」にも力を入れています。主にネット上でのトラブル回避を目的として、4～6年生を対象に情報モラル講座を設けることにしました。情報モラル講座の講師は、教頭先生です。教頭先生は本校に赴任する前は、岡崎市教育委員会で学習情報に関する仕事に携わっていました。私の前任校でも講師としてお招きして、情報モラルについての講演をしてもらった経緯があります。そこで教頭先生に講座を行っていただくことにしました。

今日の講座の対象学年は4年生です。スマホやタブレットの良さに触れながら、その危険性に徐々に食い込んでいきます。スマホでのやり取りが、いじめにつながる可能性があることや、SNSにアップデートした写真や動画などは「デジタルタトゥー」として消せなくなることを伝えていきます。教頭先生の話術と提示される資料の吸引力によって、子供たちは真剣に話に聞き入ります。講座の中で私が驚いたことは「1日3時間スマホやゲームをすると、年間での学校での授業時間数より多くなる」ということでした。1日2時間でも総授業数とほぼ同じ。授業での学びよりゲームでの遊びが多いというのは、深刻な問題であると感じました。

講座後には、子供たちから「スマホを買ってもらっても課金ゲームはしない」「ゲームの見守りのパスワードを知ってしまったから変えてもらう」といった感想が出されました。最後に教頭先生が強調したのが「スマホやゲームに関するルールを家族と一緒に決めること」です。この機会に、ご家庭でもスマホやタブレット・ゲームについて話題にさせていただき、「家庭内ルール」を決めてみてはいかがでしょうか(右図参照)。危険から子供を守ることも家庭や学校の使命だと思います。楽しく正しく情報端末の活用ができる子を育てていきましょう。



【家庭内ルール(例)】

- 1日〇時間内にしよう
- 利用場所を決めよう(リビングのみ等)
- 夜は〇時までにはしよう
- 写真や動画はアップしないようにしよう
- 何かあったらすぐに相談しよう

「スマホやSNS・ゲームに罪はない」
それは、ちがいます。
「自分自身の心や体が危険にならない使い方」
「他人に不快や危害をあえない使い方」
今後さらに、スマホなどICTは発展します。
もっとも私たちに関わり、生活に欠かせないものなるでしょう。
でも、それは常に危険と隣り合わせであることを
使う私たちが知っておく必要があります。